

クリーンセンター滋賀だより No.12

2010年10月



財団法人 滋賀県環境事業公社
Shiga prefectural environmental enterprise public corporation

—開業2周年を迎えて—

日増しに秋の深まりを感じる今日このごろ、皆様方には、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。おかげをもちまして、クリーンセンター滋賀は、この10月30日で開業2周年を迎えることとなりました。

安全・安心を第一として、信頼される施設の運営に努めてまいりますので、今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

クリーンセンター滋賀環境監視委員会の開催報告

第16回

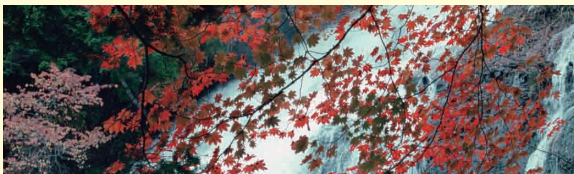
クリーンセンター滋賀環境監視委員会会議概要

- 1.日 時 平成21年 12月24日(木) 14:00~16:00
- 2.開催場所 クリーンセンター滋賀 研修室
- 3.出席者 環境監視委員 12名
- 4.議事概要
 - 1) 水質等調査結果について
 - 水質調査結果について
 - 臭気・湧出ガス調査結果について
 - 2) 搬入実績報告について
 - 搬入実績について
 - 搬入管理に係る公定法検査について
 - 3) 埋立処分の状況確認について (現地調査)
 - 4) その他
 - 環境影響評価書に基づくギンブナ移植経過について

第17回

クリーンセンター滋賀環境監視委員会会議概要

- 1.日 時 平成22年 3月 26日(金) 14:00~15:30
- 2.開催場所 クリーンセンター滋賀 研修室
- 3.出席者 環境監視委員 10名
- 4.議事概要
 - 1) 水質調査結果について
 - 2) 搬入実績報告について
 - 3) 埋立状況報告について
 - 4) その他



第18回

クリーンセンター滋賀環境監視委員会会議概要

- 1.日 時 平成22年 8月11日(水) 14:00~16:00
- 2.開催場所 クリーンセンター滋賀 研修室
- 3.出席者 環境監視委員 11名
- 4.議事概要
 - 1) 環境影響評価事後調査報告 (平成21年度分) について
 - 平成21年度 動植物調査結果について
 - 2) 水質調査結果について
 - 3) 搬入実績報告について
 - 平成20年10月30日~平成22年 7月31日までの搬入実績
 - 搬入事業者数 307 事業者
 - 契約事業者数 317 事業者 (平成22年 7月31日現在)
 - 搬入台数 6,624 台 (月平均320台、日平均15台)

搬入重量 53,651 t (安定型物 3%、管理型物62%、残土等廃棄物以外35%)

- 4) その他
 - 視察の受入状況等について
 - 受入団体数 54団体 (1034人) (平成20年 4月 1日~平成22年 8月 5日までの実績)



*「環境監視委員会概要」は財団法人滋賀県環境事業公社ホームページに掲載しています。

財団法人滋賀県環境事業公社は、県民の生活環境保全のために県内の産業廃棄物の適正な処理を公共関与により行うことを目的として、県・市町・関係事業者の出資で設立された公益法人です。



【主な意見および質疑 (第16回開催分)】

- ❖地下水質について、現状が安定しているのはわかるが、M-2の塩化物イオン濃度はM-1,M-3と比べて高い。何か原因があるのか。また、供用前からのデータはあるのか。
- ▶M-2については工事の進捗により、場所が2回変わっており、現在の観測井が設置されたのが、平成19年12月です。井戸設置当初は周辺地盤をセメント改良した影響などにより、塩化物イオン濃度は、現在より高い値を示していましたが、徐々に低下し、現状では安定しています。
- ❖搬入事業者数と定期・確認の公定法検査実施事業者数が一致していないのはなぜか。
- ▶管理型 4品目(汚泥、鉍さい、ばいじん、もえがら)については、搬入の都度、蛍光X線検査を実施していますが、1回目に異常が出なければ、2回目以降の搬入時に公定法検査を実施することにしていきますので、搬入が1回しかない排出事業者には実施できていませんので一致していません。
- ❖沈下板の設置について。
- ▶処分場の沈下量を確認するため沈下板を設置しています。設置箇所は2箇所、埋め立てた廃棄物の種類が異なるところ、および複数の埋立期にまたがるところを条件として選定しました。年1~2回測定します。
- ❖このデータは何に使われるのか？
- ▶処分場を閉鎖する際に地盤沈下が落ち着いていることが条件になってきますのでその確認を行う時に利用します。
- ❖仮移植で個体数が減少したのは、共食い等が原因であると思われるが、仮移植・本移植に際して、専門家の意見は聞かれなかったのか。
- ▶検討が足りなかった部分は確かにありますが、動植物調査を実施した委託業者の報告は、専門家の意見であると考えて、公社が対応を判断しております。



【主な意見および質疑 (第17回開催分)】

<環境影響評価事後調査報告について>

- ❖BODとCODの関係について、普通はCODの方が高いのではないかと。総窒素(T-N)濃度の動向と合わせて、原因を調査して下さい。また、平成21年1~3月に大規模処分された有機汚泥は工場の地下に長年埋まっていたものと聞いている。(土中の微生物に分解されているため)BOD源としては考えにくいのではないかと。
- ▶調査いたします。
- ❖塩化物イオン濃度の推移をみれば、浸出水原水で上昇しているのに対し、下流地下水(M2、M3)では一定あるいは下降している。したがって、クリーンセンター滋賀の浸出水が地下に漏れていないことが明らかである。

<埋立処分実績および埋立造成管理について>

- ❖覆土について、土壌汚染対策法で規定される指定基準(含有量)を超える残土は覆土としては使用しないとのことだが、指定基準を超えるものと超えないものとの割合は？
- ▶溶出基準で受入の可否判断をしており、含有量を全て確認しているわけではありませんので正確な数字はわかりません。
- ❖非飛散性石綿含有廃棄物はそんなに搬入量が無いようですが、埋立している部分は空いているのですか？
- ▶安定型廃棄物(廃プラ、ガラス陶磁器くず、がれき類)も使って、1つのメッシュ(10m×10m)を埋立していますので、メッシュ内でみれば石綿含有廃棄物は少量です。



【主な意見および質疑 (第18回開催分)】

- ❖魚類の調査について、捕獲すると傷つけてしまうこともあると思うが、その調査方法はどこで行われているのか。
- ▶タモ網、投網を用いて捕獲し、確認後は速やかに放流しています。
- ❖ホタルの調査方法はどこで行われているのか。調査範囲を歩いて確認しているということか。
- ▶夜間に調査範囲を歩きながらホタルの発光明滅を確認し、個体数を把握しています。
- ❖ホタル等の調査について、事業による影響を把握するための調査であり、現在は概ね増加傾向であり、いい状況であると思うが、調査は今後も継続して行われるのか。

▶事後調査の実施計画で、供用中の調査対象項目は、供用中においても調査を継続します。

❖両生類の移植先の池について、整備を行ったとあるが、もう少し説明をお願いします。

▶自然のままでは土砂の堆積等により水深の低下が見られたが、このことが繁殖に影響を及ぼす可能性も示唆されたため、池としての環境が維持されるように整備を行いました。

❖ギンブナは調整池で再生産されているともあるので、今後はピオトープのような積極的な環境保全対策も実施してもらいたい。

▶調整池については、ヨシも生育してきており、魚類が生育するにはよりよい環境になってきていると考えています。また、開業時に放流した色鯉も元気に生育しています。

❖魚類全般の調査結果で、カワムツ等で個体数の減少が認められるとあるが、どう評価すればいいのか。

▶調査時は渇水状況という自然条件もあることから、個体数で評価するのは難しいが、クリーンセンター滋賀の事業による影響を把握するため、環境に大きな変化がないかを確認しています。

❖浸出水原水は埋め立てられた廃棄物の影響があると考えているのか。

▶影響はあると考えています。

❖浸出水原水が設計値である300mg/Lを超えていた場合はどうするのか。循環させて再度処理することは可能なのか。

▶循環できる構造になっているため、循環させて再度処理します。

❖土日の受入はされているのか。

▶平日をお願いしています。

❖全国的な最終処分場の設置状況は把握されているのか。

▶民間の状況は分かりませんが、公共関与のものでは、資料4の視察受入状況にあります。紀南環境整備公社は建設の計画があり来られましたし、山梨県環境整備課についても新たな施設の設置に向けて検討されています。視察はありませんが、鹿児島県においても設置に向けて動いています。公社では、他府県からの視察等からこのような状況ではないかと思っています。



2009/12/24 場内視察



2010年10月1日現在 クリーンセンター滋賀埋立状況

環境影響評価の事後調査を実施しています。

クリーンセンター滋賀では、滋賀県環境影響評価条例および『(仮称) 淡海クリーンセンター甲賀設置事業環境影響評価書』に基づいて、平成16年から事後調査を継続して実施しています。

今回は、工事が完了した後の生物について、モニタリングの様子と、移植した生物の確認状況をお知らせします。

*なお、事後調査結果は毎年度報告書としてまとめて縦覧に供しています。

1. 工事後（供用後）の影響の監視状況

(1) 魚類全般

カワムツ、ドンコ、カワヨシノボリの生息が継続して確認されています。

(2) 底生動物全般

(水中に生息する昆虫、エビ・カニ類、貝類など)

主にシロハラコカゲロウやコガタシマトビケラ属などが確認され、構成に大きな変化はみられていません。また、ゲンジボタルの幼虫も多数確認されています。

(3) 付着藻類全般

(川底の石などに付着している藻類)

主に確認されているのはケイソウ類で、比較的きれいな水でみられるアクナンテスミスティシマ (*Achnanthes minutissima*) が優占しているほか、ハリケイソウ (*Nitzschia dissipata*) も継続して多くみられました。工事中は一時的に汚濁に強い種が増えましたが、その後は比較的短期間で回復しております。



コガタシマトビケラ



ハリケイソウ

2. 移植後の生息・生育状況の確認

(1) カスミサンショウウオなどの両生類

移植した7種の両生類のうち、これまで生息が確認されていたカスミサンショウウオ、イモリ、タゴガエル、ヤマアカガエル、モリアオガエルのほか、新たにニホンヒキガエルを加えた6種が確認できました。ニホンアカガエルについては、確認されておりませんが、本種あるいはヤマアカガエルのいずれか (アカガエル属) である卵塊が、センター敷地内の移植先以外でも確認されております。

(2) ギンブナ

平成20年4月に移植を行ないました。移植先での定着は確認されておりませんが、移植先の下流である防災調整池では、流下したと考えられる個体による再生産 (繁殖) が行なわれており、移植個体数を上回る数の生息が認められております。

(3) ゲンジボタル

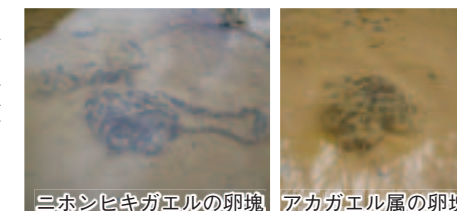
移植した箇所周辺 (付替え区間上流の次郎九郎川) での生息が継続して確認できました。さらに、施設の下流では多数が乱舞するのにもみられたほか、底生動物として幼虫も多く確認されました。

(4) エビネ

移植したエビネは、芽生えや開花が継続してみられるなど、順調な生育が確認できました。ただし、一部では昨今の降雨 (一時的な多雨) による移植先の表土の浸食が認められ、根が露出するなど今後の生育が懸念されるものも認められております。



ニホンヒキガエル



ニホンヒキガエルの卵塊

アカガエル属の卵塊



エビネ

ギンブナ

発行：財団法人 滋賀県環境事業公社

住所：甲賀市甲賀町神645
電話/FAX番号：0748-88-9191 / 0748-88-6322
メールアドレス：ccs-kousha@kouka.ne.jp
ホームページ：http://www.kouka.ne.jp/skj-ccs/

この印刷物は古紙パルプを配合しています